維新史回廊だより

第11号
平成21年
(2009年)
3月発行
(年4回発行)

◇はじめに◇

「維新史回廊だより」をご愛読いただきありがとうございます。

吉田松陰没後一五〇年に当たる今年の第一弾は、「吉田松陰自賛肖像、全員集合！」と題して、六幅ある吉田松陰の自賛肖像画を紹介し、それぞれの特徴や違いをご覧いただきます。

なお、松陰の自賛肖像画が描かれた経緯については、維新史回廊だより第一号で詳しく紹介していますので、そちらをご覧ください。

解説は、山口県文書館の山田稔専門研究員です。

◇吉田松陰自賛肖像、全員集合！◇

安政六年（一八五九年）五月、萩野山獄中の松陰に幕府から江戸送りの命が下されました。同年十月、江戸伝馬町で処刑され、この後松陰が生きて萩の地を踏むことはありませんでした。吉田松陰自賛肖像は、この最後の旅立ちを前に、松陰門下生の松浦松洞（まつうらしょうどう）が描いた肖像に、松陰が自賛（自ら賛文（画に書き添えた詩句）を書き入れること）したものです。

自賛肖像は、門下生たちの求めもあって、複数作られました。現在、①萩松陰神社本、②吉田家本、③品川本、④久坂本（くさか）、⑤岡部本、⑥中谷（なかたに）本の計六幅が残っています。賛文はほぼ同じですが、跋文（ばつぶん）（あとがき）は、書き与えた相手に応じた内容になっています。それでは、六つの自賛肖像画について説明しましょう。

①萩松陰神社本（萩市・松陰神社蔵）安政六年五月十七日
絹本着色（けんぽんちゃくしょく）。萩市の松陰神社に伝わったものです。吉田家本とともに、自賛肖像を代表する作品です。

②吉田家本（山口県文書館蔵）安政六年五月中旬
絹本着色。吉田家に伝わったものです。昭和二十九年（一九五四年）、吉田松陰関係資料七五三点とともに山口県に寄贈されました。

③品川本（京都大学附属図書館蔵）安政六年五月二十一日
紙本着色。品川弥二郎（しながわやじろう）に与えたものです。明治二十年（一八八七年）、品川が京都に設立した尊攘堂（そんじょうどう）に納められ、のちに京都帝国大学に寄贈されました。

④久坂本（世田谷区・松陰神社蔵）安政六年五月二十一日
紙本着色。久坂玄瑞（くさかげんずい）に与えたものです。もとは吉田家の所蔵でしたが、昭和十九年（一九四四年）、世田谷区の松陰神社に寄贈されました。

⑤岡部本（周南市美術博物館蔵）安政六年五月二十一日
紙本着色。岡部富太郎に与えたものです。平成三年（一九九一年）、徳山市（現周南市）が個人から寄贈を受け、現在、周南市美術博物館に保管されています。

⑥中谷本（個人蔵）安政六年五月二十四日
紙本着色。中谷正亮（なかたにしょうすけ）に与えたものです。中谷から甥の桂太郎（かつらたろう）の手に渡り、桂内閣の内閣書記官長や文部大臣を務めた萩出身の柴田家門（しばたかもん）に譲られました。その後、柴田家の手元を離れ、現在は個人の所蔵になっています。跋文に「予為人書以賛凡七通、今已厭之（中略）将発之前夕」と記されることから、松陰の自賛になるものがおよそ八幅であり、本図が萩出発前に書かれた最後の作品であることがわかります（八幅のうち二幅は自賛のみ）。肖像の右下には、筆者松浦松洞の落款（らっかん）（「松洞」「聴鶴」）があります。全ての自賛肖像の中で、松洞の落款があるのは本図だけです。

どの肖像も、「顔やや長く、隆準（りゅうせつ）（高い鼻柱）にして、白面に痘痕（あばた）を帯ぶ。一見威風の人を襲ふものなし。ただ眼光の爛々（らんらん）として他を射るのみ」と評された松陰の面貌をよく表しています。また、その出来映えは、松陰自身も認めるものであったようです。

さて、以上六幅の自賛肖像はよく似ていますが、比べてみるといろいろな違いがあることがわかります。

編集　維新史回廊構想推進協議会
発行　山口県環境生活部文化振興課（山口市滝町一－一　〇八三－九三三－二六二七）

松陰の自賛肖像に関する参考文献には次のものがあります。興味をお持ちの方は、こちらもぜひご覧ください。

【県立山口図書館所蔵文献　電話〇八三－九二四－二一一一】
・吉田庫三著『松陰先生遺著』（民友社、明治四十一年）
・広瀬豊著『吉田松陰の研究』（東京武蔵野書院、昭和十八年、マツノ書店復刻、平成元年）
・『吉田松陰遺墨帖』（山口県教育会、大和書房、昭和五十三年）
・田中助一「不明であった吉田松陰像」（『史都萩』第四六号、昭和五十九年）
・「吉田松陰肖像（自賛）について」（『山口県文書館所蔵吉田松陰関係資料目録』、山口県、平成十八年）
・山田稔「吉田松陰自賛肖像（中谷本）について」（『山口県地方史研究』第九十九号、平成二十年）
【山口県文書館所蔵文献　電話〇八三－九二四－二一一六】
・福本義亮著『勤王画士松浦松洞』（同著『吉田松陰の殉国教育』所収、誠文社、昭和八年）

※参考文献の閲覧条件等については、各施設にお問い合わせください。

◇企画展等情報◇

▼県立山口図書館（山口市後河原一五〇－一）

企画展示「維新のふるさと - 吉田松陰没後一五〇年 - 」
（平成二十一年一月三十一日～四月二十九日）

吉田松陰は、短くも波乱に満ちた生涯において、六〇〇首以上の詩歌を残しています。大半は漢詩で、志士としての気概や憂国の情、松下村塾塾生らに対する激励等を詠んでいます。

今年は、松陰没後一五〇年に当たることから、本展示では、松陰やその門下生を中心に、詩歌や遺墨に関する資料を紹介します。詳しくは、県立山口図書館ホームページ（http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/）をご覧ください。観覧料は無料です。

▼萩博物館（萩市大字堀内三五五　電話　〇八三八－二五－六四四七）

企画展「至誠の人　吉田松陰」
（平成二十一年四月十八日～六月二十一日）

吉田松陰没後一五〇年となる今年、本展覧会では、「明治維新の先覚者」「理想の教育者」などと様々な評価を受け、現在も、多くの人々を魅了し続ける松陰について、ゆかりの品や遺品等の展示を通じ、二十九歳二ヵ月という短い生涯ながらも、「至誠」を貫き通したその魅力に迫ります。詳しくは、萩博物館ホームページ（http://www.city.hagi.jp/hagihaku/）をご覧ください。

観覧料は、大人五〇〇円、高校・大学生三〇〇円、小・中学生一〇〇円です。

▼岩国徴古館（岩国市横山二－七－一九　電話　〇八二七－四一－〇四五二）

企画展「幕末の岩国展」
（平成二十一年五月十七日～七月十二日）

本展覧会では、藩校設立や四境戦争など、幕末の岩国に関わる出来事や人物について紹介します。詳しくは、岩国徴古館ホームページ（http://www.city.iwakuni.yamaguchi.jp/contents/7d63120e37122a4/7d63120e37122a420.html）をご覧ください。観覧料は無料です。

〔あとがき〕今年は吉田松陰の没後一五〇年、伊藤博文没後一〇〇年に当たることから、県内各地で様々な記念行事が開催されます。維新史回廊だよりでも、その様子を紹介していきたいと思います。

維新史回廊だよりは、県内各市町の文化振興担当課や博物館・資料館、県政資料館に置いています。県内で開催される明治維新関連の企画展・イベント情報や維新史回廊だよりのバックナンバーは、維新史回廊ホームページ（http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/gyosei/bunka-s/ishin/index.html）へアクセスしてください。

皆さんのご意見、ご感想もお待ちしています。

吉田松陰自賛肖像をくらべてみよう！

「萩松陰神社本」と「中谷本」の賛文・跋文の比較

【萩松陰神社本】

【中谷本】

絹本

萩松陰神社本

99.0×35.4

安政6年(1859年)5月17日

絹本

吉田家本

99.1×35.8

5月中旬

紙本

品川本

124.2×30.0

5月21日

紙本

久坂本

103.2×25.6

5月21日

紙本

岡部本

93.7×25.8

5月21日

紙本

中谷本

117.0×37.0

5月24日

■　構図は、羽織を纏（まと）い、脇差しを差して正座し、右手で書物の頁を捲（めく）る姿を描くものが一番多く、萩松陰神社本、品川本及び中谷本に共通しています。吉田家本は、唯一の趺坐（ふざ）（あぐら）であり、羽織を纏わず刀を左膝前に置いた、やや寛（くつろ）いだ姿勢です。

■　萩松陰神社本と吉田家本は、他の四幅にくらべて丁寧な仕上がりです。料紙に絹本（けんぽん）を使用し、賛文はしっかりとした筆致で書かれ、落款印も「吉田矩方（のりかた）」「子義（しぎ）氏」の大きなものが捺されています。おそらく、吉田家と実家の杉家に対して書き残したものと思われ、松陰入魂の作品であることが強く感じられます。

■　松浦松洞が松陰の肖像を描き始めたのは、安政３年（１８５６年）、４年（１８５７年）頃からで、江戸送り直前に野山獄中の松陰を訪ねて描いたものもあるようです。いずれにしても、松陰が自賛したのは、江戸へ旅立つ前のわずか８日間です。最後ということで多くの人々が獄中の松陰に面会して、書などを求めました。このように慌ただしい中、さすがの松陰も自賛するのに少々疲れたようで、最後の中谷本の跋文には「すでに厭（あ）きた」と書いています。教育者・思想家として崇められることの多い松陰の、人間としての親しみが感じられるエピソードです。